

登録コード	L1720100	開講年度	2026				
担当教員	山本 英二			副担当			
授業科目	日本史概論						
英文授業名	Japanese History: Introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				・通説とされる歴史的事実について、批判的に考察する能力を養う。 ・史料の読解能力を獲得する。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				・通説とされる歴史的事実について、批判的に考察する能力を養う。 ・史料の読解能力を獲得する。		
授業の概要	この授業では、学習指導要領（新）に基づいた高校教科書日本史Bと2022年以前の学習指導要領（旧）の日本史Bを読み比べ、その変更点を最新の研究成果に即して講義します。そして高校日本史既習得者は復習をおこない、高校日本史未履修者は日本史知識の習得をめざします。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：古代1—政治 第3回：古代2—文化 第4回：鎌倉時代1—政治 第5回：鎌倉時代2—外交 第6回：室町時代1—政治 第7回：室町時代2—社会 第8回：戦国時代1—政治 第9回：戦国時代2—社会 第10回：江戸時代1—政治 第11回：江戸時代2—地域 第12回：江戸時代3—外交 第13回：幕末維新1—政治 第14回：幕末維新2—外交 第15回：まとめ・授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	e-Alpsへの課題提出（90％）、授業時における平常点（10％）による総合評価。						
成績評価の基準	高校日本史と日本史学の相違点の理解度、歴史学的思考の獲得度。 授業の趣旨をきちんと理解し、積極的に参加し、提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリント（新旧高校日本史教科書）を予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。 指示される参考文献により知識の確認をすること。						
履修上の注意	高校日本史Bレベルの日本史知識が要求されます。						
質問、相談への対応	オフィスアワー【毎週水曜12:10～13:00】に対応します。						
教科書	適宜指示します						
参考書	高校日本史B教科書						

登録コード	L1720200	開講年度	2026				
担当教員	塩原 佳典			副担当			
授業科目	日本史概論						
英文授業名	Japanese History: Introduction						
授業タイトル	日本近現代史の記述と史学史的背景						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前が対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			日本史研究（特に近現代史）に関するこれまでの枠組みや方法論をふまえつつ、それらを批判的に問い直し、自らの関心と接続しながら課題設定ができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			日本史研究（特に近現代史）に関するこれまでの枠組みや方法論をふまえつつ、それらを批判的に問い直し、自らの関心と接続しながら課題設定ができるようになる。			
授業の概要	この講義では、日本近現代史について概説します。高校日本史で扱うトピックスを基本としながら、前近代からの連続性、およびアジアやヨーロッパ史との関連性を念頭に授業を展開します。もとより、高校教科書を単に読み直すだけではありません。歴史学における問題枠組みや方法論の変遷を参照することで、教科書の記述を成り立たせている史学史的な学知のあり方にも目を配ります。そのため、過去と現在の教科書を比較し、記述の「書き換え」についても考察します。 このほか、特に20世紀以降については、映像など文書以外の史料も利用しながら論じます。歴史研究が、文字史料を中心としつつも、多彩な手がかりを用いて取り組まれている現状について紹介します。 受講生には、歴史を記述する営みがどのような素材や問題関心のもとに成り立っているのか、その過程への視座を身につけてほしいと思います。そこから、自分自身で歴史を研究する勉強につなげてください。						
授業計画	授業計画 1. ガイダンス：「日本」の近現代史を記述すること 2. 日本資本主義論争から戦後歴史学へ：明治維新はどう論じられてきたか 3. 問題としての国民国家：私はいつから「日本人」になったと考えるのか 4. 近代日本の通俗道德と伝統的民衆世界：民衆思想史が切り開く光景 5. 明治地方自治体制と政党政治の起こり：地方利益論とその相対化 6. 明治憲法と教育勅語：立憲主義の見果てぬ夢 7. 日清・日露戦争という経験：資本主義社会における国民の分裂と統合 8. 帝国日本のデモクラシーと「社会」の発見：生の複数性が自覚され始める 9. 農村の貧困：工業化と人口移動、生活と国体 10. 「戦後」の生活文化：女性、子ども、障害者、植民地にみる動員の様相 11. 総力戦体制の「福祉国家」から「戦後」へ：始まりそこねた「敗戦後」 12. 高度経済成長と社会運動の広がり：『プロジェクトX』が逆照射するひずみ 13. 大衆消費社会で暮らす：「ピカピカの所与」と子どもの遊び 14. 「失われた30年」の社会史：文化と政治が脱文脈化するなかで模索される共同性 15. まとめと展望：「戦後80年」を物語として生きる（授業アンケート実施）						
成績評価の方法	毎回の小レポート（30％）と期末テスト（70％）によります。						
成績評価の基準	講義の内容を理解していることを基準とし、 批判的に受けとめさらなる問いを立てている（「卓越」）、 浮かんだ疑問をまとめ述べることでできている（「やや上にある」）、 内容を的確に理解している（「その水準にある」）とする。						
事前事後学習の内容	配布するレジュメをもとに予習と復習に取り組んでください。レジュメでは引用・参考文献を必ず表記しますので、それらにも目を通してください。						
履修上の注意	高校までに使用していた日本史（または社会科）の教科書は有益な参考書になるので、手元に置いて受講してください。						
質問、相談への対応	適宜受け付けます。授業後など、気軽に質問してください。オフィスアワーは、金曜3限に設定しています。						
教科書	毎回講義レジュメを配布します。						
参考書	各回の内容に合わせ参考文献を都度紹介します。加えて関連する論点を比較的多く提示する文献として、以下を紹介しておきます。各自の関心に合わせ、複数冊に目を通してください。 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社ライブラリー、1999年 藤田省三『精神史的考察』平凡社ライブラリー、2003年 成田龍一『近現代日本史と歴史学：書き換えられてきた過去』中公新書、2012年 藤野裕子『民衆暴力：一揆・暴動・虐殺の日本近代』中公新書、2020年						

参考書

松沢裕作・高嶋修一編『日本近・現代史研究入門』岩波書店、2022年

高岡裕之『増補 総力戦体制と「福祉国家」：戦時期日本の「社会改革」構想』岩波現代文庫、2024年

登録コード	L1730200	開講年度	2026				
担当教員	山本 英二			副担当			
授業科目	日本史特論						
英文授業名	Lecture of Japanese History						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				・通説とされる歴史的事実について、批判的に考察する能力を養う。 ・史料の読解能力を獲得する。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				・通説とされる歴史的事実について、批判的に考察する能力を養う。 ・史料の読解能力を獲得する。		
授業の概要	この授業では、徳川幕府260年間・15代の将軍を紹介しながら、近世の政治と社会について考えていきます。今回は8代徳川吉宗から11代徳川家斉までを扱います。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：徳川吉宗（1） 第3回：徳川吉宗（2） 第4回：徳川吉宗（3） 第5回：徳川吉宗（4） 第6回：徳川家重（1） 第7回：徳川家重（2） 第8回：徳川家治（1） 第9回：徳川家治（2） 第10回：徳川家斉（1） 第11回：徳川家斉（2） 第12回：徳川家斉（3） 第13回：徳川家斉（4） 第14回：予備日 第15回：まとめ・授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	e-Alpsの課題（90％）、平常点（10％）の総合評価 日本近世史に関する新知見の理解度、歴史的な思考の獲得度により総合的に評価する。 授業の趣旨をきちんと理解し、積極的に参加し、提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
成績評価の基準	日本史学の理解度、歴史的思考の獲得度。						
事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリントを予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。 指示される参考文献により知識の確認をすること。						
履修上の注意	活字の古文書を読みます。事前に十分に予習をして授業に臨んで下さい。						
質問、相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】に対応します。						
教科書	適宜指示します						
参考書	適宜指示します						

登録コード	L1730500		開講年度	2026			
担当教員	塩原 佳典			副担当			
授業科目	日本史特論						
英文授業名	Lecture of Japanese History						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ 【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			日本近代史を研究するための調査方法や課題設定の視点が身についている。			
授業の概要	この講義では、担当者が現在取り組んでいる主題について論じます。「近代日本の公立病院と地域社会」をテーマに、各論点をいかに設定したのか、またどこで史料を蒐集したのか、さらにそれらの史料をいかに解読したのか、といった研究のプロセスにまで踏み込んで紹介します。また、個別の事例を扱いながら、いかににより多くの人びとの関心に接続するのか、担当者の工夫についても紹介できればと考えています。 以上のことをとおして、受講者がそれぞれの問いに即した歴史研究を行うための、思考や調査の構えについて理解を深めることを目指します。						
授業計画	1. ガイダンス：授業の進め方や問題関心について 2. 公共性の歴史について何が議論されてきたか 3. 近代日本の地方行政と自治：公共性の単位を模索する 4. 医療環境史を地域社会論から問い直す 5. 明治維新期の松本藩における医師養成 6. 藩から県への移行過程にみる医学校・病院政策の転回 7. 松本公立病院の創設と地域社会の協力 8. コレラの流行と公立病院 9. 三郡共立体制の解体：病院医療をめぐる「公」の行方 10. 幕末維新期における諏訪の利用環境 11. 郡を単位とした医療圏の形成と持続 12. 明治初年の医師修業：医の近代化と在村医の進路 13. 公立病院の黎明と在村医家 14. 産業構造の転換にともなう共同性の変容 15. ふり返りとまとめ（授業評価アンケート実施）						
成績評価の方法	毎回の小レポート（30％）と期末レポートによります。						
成績評価の基準	講義の内容を理解していることを基準とし、批判的に受け止めさらなる問いを立てている（「卓越」）、浮かんた疑問をまとめ述べる事ができている（「やや上にある」）、内容を的確に理解している（「その水準にある」）とする。						
事前事後学習の内容	配布するレジュメをもとに予習と復習に取り組んでください。						
履修上の注意	この講義は、日本史（および歴史学一般）で卒論を執筆する学生を対象として行います。特に日本近代史について、概論的に理解していることを前提にしています。						
質問、相談への対応	適宜受け付けます。授業後など、気軽に質問してください。オフィスアワーは、金曜3限に設定しています。						
教科書	毎回レジュメを配布します。						
参考書	公共性と地方自治の歴史 齋藤純一『公共性』岩波書店、2000 東島誠『公共圏の歴史的創造』東京大学出版会、2000 飯塚一幸『明治期の地方制度と名望家』吉川弘文館、2017 三村昌司『日本近代社会形成史』東京大学出版会、2021 医療の社会史 青木歳幸『在村蘭学の研究』思文閣出版、1998 海原亮『近世医療の社会史』吉川弘文館、2007 猪飼周平『病院の世紀の理論』有斐閣、2010 新村拓『売薬と受診の社会史』法政大学出版局、2018						

登録コード	L1732200	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀 他			副担当	豊岡 康史・新津 健一郎		
授業科目	歴史学方法論基幹演習						
英文授業名	Learning Method of History:Basic Seminar						
授業タイトル	歴史学方法論基幹演習（外国史）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前が対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				歴史学の方法論についての理解をもとに、学術論文の内容を正確に把握できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				歴史学の方法論についての理解をもとに、学術論文の内容を正確に把握できるようになる。		
授業の概要	歴史学にまつわるレクチャーを通じて、歴史学の基本的な考え方を理解し、それらを踏まえて、指定の学術雑誌に掲載される論文のレビューを通じて、歴史学の方法論を体得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 歴史学の方法論（1） 歴史と歴史学のあいだ 第3回 歴史学の方法論（2） 史料のあり方・研究のありかた 第4回 文献検索の方法（1） 『回顧と展望』 第5回 文献検索の方法（2） オンラインデータベース 第6回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（1） 第7回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（2） 第8回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（3） 第9回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（4） 第10回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（5） 第11回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（6） 第12回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（7） 第13回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（8） 第14回 学生による論文の批評・プレゼンテーション（9） 第15回 総括 後期の研究室振分用レポートの説明 定期試験なし						
成績評価の方法	各個人の報告（50%）および毎回の発言内容（50%）から評価する。						
成績評価の基準	授業中の討論を通じて理解度を測り（20%）、自分の主張をどれだけ客観的に行っているか（10%）、他の人の理解を得られる論理的な発言か（20%）をみる。また、プレゼンテーションの内容がどれだけ客観的、論理的であるか（30%）、理解し組み上がっているか（20%）を総合的に判断する。各判断基準は以下のとおり。 ●理解度：テキスト内容・自らのプレゼン内容などを概ね把握できていれば「その水準にある」とし、内容をふまえてさらに踏み込んだ発言があれば「卓越している」と評価する。 ●客観性：自らの主張に際して、三人称を用い、感覚的な表現を排して、一般化が可能な論理を用いることができていれば「その水準にある」と評価する。 ●論理性：自らの主張に際して、破綻なく議論を組み立てられていれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	参考文献のほか、関連する文献・論文を積極的に自分で探して読むこと。						
履修上の注意	西洋史・東洋史の研究室を志望したものは「 」を登録・履修すること。 無断欠席は一切認めない。指名しても発言がない場合は出席としてカウントしない。						
質問、相談への対応	担当教員がメールで受け付ける。 佐藤真紀（maquis@shinshu-u..ac.jp） 豊岡康史（toyooka@shinshu-u.ac.jp） 新津健一郎（keniitsu@shinshu-u.ac.jp）						
教科書	指定しない。						
参考書	桃木至朗ほか編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年 東京大学教養学部歴史学会編『歴史学の思考法』岩波書店、2020年						

登録コード	L1733500	開講年度	2026				
担当教員	塩原 佳典			副担当			
授業科目	日本史基幹演習						
英文授業名	Japanese History: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文201演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前が対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・日本近現代史研究に必要な史料を扱う作法を身につける。 ・史料を読み解くための参照枠組みとなる歴史学の研究史や論点を学ぶ。			
	【2022年度以前が対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			・日本近現代史研究に必要な史料を扱う作法を身につける。 ・史料を読み解くための参照枠組みとなる歴史学の研究史や論点を学ぶ。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			・日本近現代史研究に必要な史料を扱う作法を身につける。 ・史料を読み解くための参照枠組みとなる歴史学の研究史や論点を学ぶ。			
授業の概要	主として日本近代史についての史料を読む。具体的には明治期の地方新聞（『松本新聞』）を輪読しながら、参加者の問題関心に即して関連する史料を発展的に組み合わせる。史料を介して討論を繰り返すことで、日本近代に関する歴史観を相互に深める。 史料を読むためには、歴史学はじめ隣接領域に広く学ぶ必要がある。そのため、政治史、社会史、文化史、教育史、ジェンダー史などの文献を講読する。 また、史料に関連する史蹟や博物館を巡見する機会も設ける。						
授業計画	授業計画 第1週 講読に向けた準備（レジュメ作りなど） 第2週 『松本新聞』について 第3週 藤田省三『精神的考察』の輪読 第4週 藤田省三『精神的考察』の輪読 第5週 藤田省三『精神的考察』の輪読 第6週 藤田省三『精神的考察』の輪読 第7週 史料を読む（読み合わせ） 第8週 史料を読む（読み合わせ） 第9週 史料を読む（読み合わせ） 第10週 史料を読む（読み合わせ） 第11週 巡見 第12週 史料を読む（担当箇所の講読） 第13週 史料を読む（担当箇所の講読） 第14週 史料を読む（担当箇所の講読） 第15週 史料を読む（担当箇所の講読）（授業アンケートを実施）						
成績評価の方法	報告の内容、討論への参加をもとに評価を行う。無断欠席は認めない。						
成績評価の基準	「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに発展的な報告内容としてまとめ、討論にも積極的に参加している」（卓越している）、「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」（やや上にある）、「蒐集した史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」、「報告内容をまとめ、討論にも参加している」（合格水準にある）。						
事前事後学習の内容	初回到発表順の分担を決定する。報告にあたっては、参考文献を複数冊読み込み、レジュメ作成にあたること。 卒業論文のテーマを意識しながら、史料や文献を読む勉強に取り組んでください。						
履修上の注意	無断欠席は認めません。毎回、史料や文献の予習をして臨んで下さい。						
質問、相談への対応	オフィスアワーなどを利用し対応します。面談を希望される場合は、事前にアポイントをとってください。オフィスアワーは、金曜3限に設定しています。						
教科書	講読で用いる文献と史料は初回到配布します。						
参考書	議論の内容をふまえ、適宜紹介します。						

登録コード	L1733600	開講年度	2026				
担当教員	山本 英二			副担当			
授業科目	日本史基幹演習						
英文授業名	Japanese History: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文401演習室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			・古文書を正確に解読し、歴史的な思考ができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			・古文書を正確に解読し、歴史的な思考ができるようになる。			
授業の概要	演習では、信濃国松本藩藩主戸田光年『神龍院様御事実綱領』をテキストに、古文書を解読し、個別発表をおこない、みんなで討論します。また、希望に応じて県内の博物館見学や、演習に関係する地域でのフィールドワークもおこなってみたいと思っています。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 くずし字辞典の使い方 第3回 『神龍院様御事実綱領』について 第4回 古文書解読 文化5年1月（1） 第5回 個人報告（1） 第6回 古文書解読 文化5年1月（2） 第7回 個人報告（2） 第8回 古文書解読 文化5年2月（1） 第9回 個人報告（3） 第10回 古文書解読 文化5年2月（2） 第11回 個人報告（4） 第12回 古文書解読 文化5年3月（1） 第13回 個人報告（5） 第14回 古文書解読 文化5年3月（2） 第15回 個人報告（6）・授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	ゼミでの個人報告および出席などの平常点（60％）を重視します。古文書読解力の到達点をみるために、試験もしくはレポート提出（40％）を課すことがあります。						
成績評価の基準	古文書解読、学術著書・論文の読解、ゼミ報告のプレゼンテーション、ディベートを総合して評価する。授業の趣旨をきちんと理解し、積極的に参加し、提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	事前に辞典類で古文書解読の予習をすること。事後には随時指示する参考文献により知識の確認をおこなうこと。						
履修上の注意	無断欠席は一切認めません。必ず予習をして望んでください。積極的に発言してください。						
質問、相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】および授業終了後に対応します。 場所：人文学棟3F・山本研究室						
教科書	『くずし字解読辞典』 児玉幸多監修 東京堂出版 2,420円						
参考書	深井雅海『江戸城』（中公新書）760円						

登録コード	L1740300	開講年度	2026				
担当教員	山本 英二			副担当			
授業科目	日本史発展演習						
英文授業名	Japanese History: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文401 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・古文書を正確に解読し、歴史的な思考ができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			・古文書を正確に解読し、歴史的な思考ができるようになる。			
授業の概要	演習では、信濃国松本藩藩主戸田光年『神龍院様御事実綱領』をテキストに、古文書を解読し、個別発表をおこない、みんなで討論します。また、希望に応じて県内の博物館見学や、演習に関係する地域でのフィールドワークもおこなってみたいと思っています。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 くずし字辞典の使い方 第3回 『神龍院様御事実綱領』について 第4回 古文書解読 文化5年4月(1) 第5回 個人報告(1) 第6回 古文書解読 文化5年4月(2) 第7回 個人報告(2) 第8回 古文書解読 文化5年5月(1) 第9回 個人報告(3) 第10回 古文書解読 文化5年5月(2) 第11回 個人報告(4) 第12回 古文書解読 文化5年6月(1) 第13回 個人報告(5) 第14回 古文書解読 文化5年6月(2) 第15回 個人報告(6)・授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	ゼミでの個人報告および出席などの平常点(60%)を重視します。古文書読解力の到達点をみるために、試験もしくはレポート提出(40%)を課すことがあります。						
成績評価の基準	古文書解読、学術著書・論文の読解、ゼミ報告のプレゼンテーション、ディベートを総合して評価する。授業の趣旨をきちんと理解し、積極的に参加し、提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであれば「卓越している」と評価する。以上の項目すべてに関して妥当性が認められる場合は「やや上にある」、総合的に見て妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	事前に辞典類で古文書解読の予習をすること。事後には随時指示する参考文献により知識の確認をおこなうこと。						
履修上の注意	無断欠席は一切認めません。必ず予習をして望んでください。積極的に発言してください。						
質問、相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】および授業終了後に対応します。 場所：人文学棟3F・山本研究室						
教科書	『くずし字解読辞典』 児玉幸多監修 東京堂出版 2,420円						
参考書	深井雅海『江戸城』(中公新書)760円						

登録コード	L1740500	開講年度	2026				
担当教員	塩原 佳典			副担当			
授業科目	日本史発展演習						
英文授業名	Japanese History: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文201 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				日本近現代史の多彩な史料から論点を見出し、調査・分析した成果をまとめられるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				日本近現代史の多彩な史料から論点を見出し、調査・分析した成果をまとめられるようになる。		
授業の概要	卒業論文の執筆を意識しつつ、各自の問題関心や研究テーマを明確化し深めるため、文献講読や研究の発表を順番で繰り返していく。その前提として、自分のテーマに関連する史料や文献を蒐集する作法についても学ぶ。						
授業計画	授業計画 第1週 ガイダンス（授業の進め方、発表の順番など） 第2週 レジューメ作成の作法 第3週 文献の検索、史料の蒐集 第4週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第5週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第6週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第7週 研究論文講読（基礎） 民衆史 第8週 研究論文講読（基礎） 社会史 第9週 研究論文講読（基礎） 教育史 第10週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第11週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第12週 各自の研究テーマに関わる報告（グループ） 第13週 研究論文講読（基礎） 政治史 第14週 研究論文講読（基礎） 女性史・ジェンダー史 第15週 研究論文講読（基礎） 植民地史 授業アンケートを実施する						
成績評価の方法	報告内容と討論への参加状況によって評価する。無断欠席は認めない。						
成績評価の基準	「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに発展的な報告内容としてまとめ、討論にも積極的に参加している」（卓越している）、「史料から論点を見出し、蒐集した関連史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」（かなり上にある）、「蒐集した史料をもとに報告をまとめ、討論にも参加している」（やや上にある）、「報告内容をまとめ、討論にも参加している」（合格水準にある）。						
事前事後学習の内容	初回到発表順の分担を決定する。報告にあたっては、参考文献を複数冊読み込み、レジューメ作成にあたること。 卒業論文のテーマを意識しながら、史料や文献を読む勉強に取り組んでください。						
履修上の注意	無断欠席は認めません。毎回、史料や文献の予習をして臨んで下さい。						
質問、相談への対応	オフィスアワーなどを利用し対応します。面談を希望される場合は、事前にアポイントをとってください。オフィスアワーは金曜3限に設定しています。						
教科書	各自の問題関心や議論の内容をふまえ、適宜紹介します。						
参考書	松沢裕作・高嶋修一編著『日本近・現代史研究入門』岩波書店、2023年						

登録コード	L1820100	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	東洋史概論						
英文授業名	Asian History: Introduction						
授業タイトル	中国通史——モンゴル帝国以前						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			モンゴル帝国時代以前の中国社会の変容や各時期の特徴について、根拠に基づいて分析し、筋道立てて説明できるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			モンゴル帝国時代以前の中国における主要な歴史事象について、その意義を根拠に基づいて考察することができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			モンゴル帝国時代以前の中国史を軸として、近隣諸地域を含むアジアの多角的歴史展開を整理して理解し、各時期・地域の特色及びそれら相互の関係を具体的に説明できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			・モンゴル帝国時代以前の中国社会の変容や各時期の特徴について、根拠に基づいて分析し、筋道立てて説明できるようになる。 ・モンゴル帝国時代以前の中国における主要な歴史事象について、根拠に基づいて事実関係を理解し、その意義を考察することができるようになる。 ・モンゴル帝国時代以前の中国史を軸として、近隣諸地域を含むアジアの多角的歴史展開を整理して理解し、各時期・地域の特色及びそれら相互の関係を具体的に説明できるようになる。			
授業の概要	ユーラシア大陸の東部に位置する中国には、新石器時代以来特色ある歴史が展開し、そこで生み出された制度や文化は日本列島・朝鮮半島・東南アジア地域など近隣諸地域に対して大きな影響を及ぼしてきました。このことは、日本の歴史展開や文化の基礎を理解するうえでも重要な意味を持ちます。同時に、中国の政治・社会・文化もまた、北方遊牧世界や内陸アジア地域、東南アジア／海域世界などと関わり合いながら変容・展開をみせました。中国に焦点を当てて主要な歴史事象を理解していくことは、アジア（東洋）諸地域の特徴やそれらの歴史の大枠を把握する手掛かりとなります。そこで本講義では、モンゴル帝国の成立以前（13世紀以前／古代・中世）を対象として中国の通史を学びます。基本的には毎回テーマを設け、順を追って中国史の概括的問題を取り上げていく形をとりますが、テーマによっては日本を含む（東）アジア地域やユーラシア大陸を見渡すことで、地域間の交流や文化の伝播・接触も含めて歴史・地理・文化の大枠を理解することを目指します。同時に、事例を取り上げる中で、歴史学上の分析概念や論点、基本的な発想や思考法を理解することにも取り組みます。これにより、歴史学——とくに東洋史学（そして古代・中世史）という領域での基本的学力を養います。						
授業計画	01) ガイダンス 02) 中国の歴史はいつはじまるか？〔先史地域文化と初期国家の形成〕 03) 「夏王朝」は実在したといえるか？〔夏・殷・周／文献史料と物証（甲骨・金文）〕 04) 出土文字資料は歴史を書き換えるか？〔東周・春秋戦国時代／簡牘・帛書〕 05) 皇帝と王は違うのか？〔秦漢帝国の形成／皇帝制度・古典的国家制度〕 06) 帝国はなぜ滅びたのか（1）？〔漢帝国の変容／王莽の篡奪／帝国の解体〕 07) 天命を継承するのは誰か〔漢滅亡後の歴史展開と諸民族〕 08) 夷狄は中華になれるのか？〔隋唐帝国の成立と東部ユーラシア世界〕 09) 「日本」はどのようにして生まれたか？〔東アジア世界の形成〕 10) 女性は皇帝になれるのか？〔唐代初期の権力構造とジェンダー〕 11) 貴族とは何か？〔唐代の政治と社会〕 12) 帝国はなぜ滅びたのか（2）？〔安史の乱・黄巢の乱と唐帝国〕 13) 歴史に「法則」はあるのか？〔唐宋変革と五代十国〕 14) 「中国」はどこからどこまでか？〔宋と遼・金〕 15) モンゴル帝国はなぜ成立したのか？〔「中央ユーラシア型国家」の展開／あわせて授業アンケートを実施〕 定期試験は行いません。 ・ガイダンスを除き、概ね時系列で中国史の大枠（すなわち主要な歴史事象）に関する講義を行います。いずれも対面で実施します。ただし、台風や降雪による交通の混乱、感染症の蔓延などが懸念される場合には、緊急避難的にオンデマンド／オンライン形式に切り替える可能性があります。 ・講義形式の授業ですが、内容理解の深化を図るため、授業中に簡単なペアワーク等を行う可能性もあります。						
成績評価の方法	・小テスト【70%】……授業3～4回に1回のペースで、授業内容の理解度を確認するための小テストを行います（eALPSを使用し、原則として授業時間外に実施。資料参照可）。得点の積み重ねを素点70点分に換算します。なお、この小テストは下記「事後学習」の範囲内で準備する（特別な試験対策は要求しない）ものとし、実施期日は授業の進行に応じて設定します。						

成績評価の方法	・記述課題【30%】……学期を通じて3回程度、授業内容の理解度を確認するための文章記述課題を設定します。eALPSを用いて提出するものとします。また、生成AIの不適正使用を防ぐため、いくつかの条件を設ける予定です。詳細は、実施時の生成AIの精度及び普及状況を考慮して、授業内で指示します。提出の有無及び内容（下記「成績評価の基準」による）を点数化し、素点30点分に換算します。 以上に基づき、素点100点満点で評価をおこないます。
成績評価の基準	・授業で扱われた諸事象を正確に理解したうえで、複数の事象の因果関係や影響を組み合わせ、構造的に分析することができていれば、「卓越している」といえる。 ・授業で扱われた諸事象を正確に理解したうえで、それら個々の因果関係や影響について、妥当な分析ができていれば、「かなり上にある」といえる。 ・授業で扱われた諸事象を正確に理解できていれば、「やや上にある」といえる。 ・授業で扱われた諸事象をおおむね正確に理解できていれば、「合格水準にある」といえる。
事前事後学習の内容	【事前】シラバス・eALPS及び参考文献をよく読み、次の授業で扱われる内容について、（1）シラバスまたは授業資料に示す参考書、（2）高等学校で使用した世界史教材、（3）高校世界史の学び直しに資するコンテンツ（NHK高校講座など。授業内でも説明予定）のいずれかを利用し、時代の特徴や主要な人名・地名・位置関係・概念を把握しておくこと。なお、回によっては、具体的な課題を提示することもあります。 【事後】自身の理解度や学習習慣に応じて、以下の各項目、理解を深めること。（1）配布された資料を読み直すこと（例えば、メモ書き・箇条書きになっている事項や、授業中に口頭で説明された事項のメモを文章化してみるなど）。（2）配布された史料・読み物、シラバスや授業内で紹介された参考文献に目を通すこと。（3）授業内容を踏まえて、高校世界史教材／学習コンテンツ等を改めて見直すこと。なお、回によっては、具体的な課題を提示することもあります。このほか、図書館に足を運んで参考文献を手に取り、目を通すこと。小テスト／課題が指示されている場合は、十分準備の上、それらに取り組むこと。 不明点は随時質問してください。疑問や興味を感じた事柄については、シラバスに掲載されている参考文献リストと図書館を活用して積極的に知識を広げてください。手間を惜しまず、図書館に足を運ぶことも重要な学習活動です。
履修上の注意	・大学入学までの歴史系科目（または関連教科・科目）の学習経験は問いません。履修者の確定後、受講者の前提知識などを確認し、説明の方法等に反映する予定です。大学入学以前の得意不得意にかかわらず、積極的な受講・学修を期待します。また歴史学コース以外の方、一年生の方についても、参加をおおいに歓迎します。 ・高等学校用世界史教材（とくに用語集・図表集など）は本講義の内容を深く理解し、授業の達成目標にスムーズにたどり着くために有益です。各自の学習経験と習熟度に応じて、積極的に活用してください。教室に持参しても構いません。 ・出席については、「信州大学における授業の出席に関する要項」に沿って取り扱います。すべての回に出席することが基本です。「要項」に定める事由については学修の補充措置を取りますが、授業中の活動などは、その性質上、完全に補えないこともあります。補充の申し出及び打刻に関するトラブル（読み込みができない、等）への対応はガイダンスで説明しますので、指示に従ってください。 ・連絡事項の聞き落とし、eALPSの操作ミス、指示の見落としや誤認は（成績評価が下がるなど）自身の不利益につながる場合があります。十分注意してください。事務連絡や課題のリマインド、前記事情によりオンデマンド／オンライン形式に切り替える場合などにはeALPSおよび大学メールアドレス（学籍番号@shinshu-u.ac.jp）を使用します。週に一回以上を目安として定期的に確認してください。
質問、相談への対応	・授業内容に関する質問及び相談は、原則として授業の前後に受け付けることとしますが、記述課題の中に質問を含めても構いません。なお、受講者全体にとって有益な意見や質問は、提出者名を伏せたうえで授業中に紹介する可能性があります。 ・電子メール（eALPS及び履修案内で確認できます）での質問や相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合がありますので、余裕をもって問い合わせてください。 ・電子メールでの問い合わせについては、不審なメールや迷惑メールに紛れることを防止するため、件名・宛名や差出人を明記するなど、書式に注意してください。 ・込み入った内容の相談などで面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください。時間を設定し、対面／zoomなどで対応します。
教科書	指定なし。毎回資料を配布します。また、下記の参考書および授業内で紹介する文献を活用してください。
参考書	【授業全般にわたる参考書】 ・岸本美緒『中国の歴史』筑摩書房、2015. ・鶴間和幸ほか編『悪の歴史 東アジア編』清水書院、2017. ・岡美穂子責任編集『つなぐ世界史1』清水書院、2023. ・中西竜也、増田知之編『よくわかる中国史』ミネルヴァ書房、2023. ・渡辺信一郎『さまざまな歴史世界』かもがわ出版、2023. ・山崎覚士『成句・故事成語ではじめる中国史』法律文化社、2024. ・松下憲一『中華とは何か』ちくま新書、2025. （シリーズ） ・尾形勇ほか編『世界歴史大系 中国 1・2・3』山川出版社. ・尾形勇、岸本美緒編『中国史 上・下』山川出版社、2019. ・宮本一夫ほか『中国の歴史 01～08』講談社学術文庫、2020-21. ・渡辺信一郎ほか『シリーズ中国の歴史 1～3』岩波新書、2019-2020. ・青山亨ほか編『アジア人物史1～5』集英社、2023. 【各回の内容にかかわるもの】

参考書

- ・岡村秀典『夏王朝：中国文明の原像』講談社学術文庫，2007.
- ・宮宅潔『中国古代刑制史の研究』京都大学学術出版会，2011.
- ・土口史記『先秦時代の領域支配』京都大学学術出版会，2011.
- ・杉山正明『遊牧民から見た世界史』増補版，日本経済新聞出版社，2011.
- ・藤野月子『王昭君から文成公主へ』九州大学出版会，2012.
- ・中国出土資料學會『地下からの贈り物』東方書店，2014.
- ・落合淳思『殷』中公新書，2015.
- ・戸川貴行『東晋南朝における伝統の創造』汲古書院，2015.
- ・沢田勲『匈奴：古代遊牧国家の興亡』新訂版，東方書店，2015.
- ・佐藤信弥『周』中公新書，2016.
- ・楯身智志『前漢国家構造の研究』早稲田大学出版部，2016.
- ・氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫，2016.
- ・田中一輝『西晋時代の都城と政治』朋友書店，2017.
- ・礪波護『鏡鑑としての中国の歴史』法蔵館，2017.
- ・田余慶（田中一輝、王コウ訳）『北魏道武帝の憂鬱』京都大学学術出版会，2018.
- ・池田恭哉『南北朝時代の士大夫と社会』研文出版，2018.
- ・河内春人『倭の五王』中公新書，2018.
- ・李熙濬（諫早直人訳）『新羅考古学研究』雄山閣，2019.
- ・石曉軍『隋唐外務官僚の研究』東方書店，2019.
- ・落合淳思『漢字の構造』中公選書，2020.
- ・吉川忠夫『六朝隋唐文史哲論集（1・2）』法蔵館，2020.
- ・渡邊義浩『中国における正史の形成と儒教』早稲田大学出版部，2021.
- ・佐藤信弥『戦争の中国古代史』講談社，2021.
- ・飯島武次『中国殷王朝考古学研究』同成社，2021.
- ・李憑（劉可維ほか訳）『北魏平城時代』京都大学学術出版会，2021.
- ・池田恭哉ほか訳『北齊書 中国史書入門』勉誠出版，2021.
- ・会田大輔『南北朝時代』中公新書，2021.
- ・千田豊『唐代の皇太子制度』京都大学学術出版会，2021.
- ・鈴木靖民監修『古代日本対外交流史事典』八木書店，2021.
- ・村元健一『日本古代宮都と中国都城』同成社，2022.
- ・辻正博編『中国前近代の関津と交通路』京都大学学術出版会，2022.
- ・岡田和一郎，永田拓治編『漢とは何か』東方書店，2022年。
- ・中村慎一編『中国新石器時代文明の探求』六一書房，2023.
- ・佐藤信『古代史講義 海外交流篇』ちくま新書，2023.
- ・平田陽一郎『隋』中公新書，2023.
- ・森部豊『唐』中公新書，2023.
- ・諫早直人，向井佑介編『馬・車馬・騎馬の考古学』臨川書店，2023.
- ・阿部幸信『印綬が創った天下秩序』山川出版社，2024.
- ・網伸也編『東アジア都城と宗教空間』京都大学学術出版会，2024.
- ・羅新（田中一輝訳）『果てしない余生：ある北魏宮女とその時代』人文書院，2024.
- ・古松崇志『ユーラシア東方の多極共存時代』名古屋大学出版会，2024.
- ・白石典之『元朝秘史』中公新書，2024.
- ・渋谷綾子，石田智子編『中国文明の起源と伝播』吉川弘文館，2025.
- ・辻田淳一郎編『倭の五王の時代を考える』吉川弘文館，2025.
- ・王寧遠（陳文君訳）『良渚文化とは何か』雄山閣，2025.
- ・海野典子『イスラームが動かした中国史』中公新書，2025.
- ・上田信『東ユーラシア全史』中公新書，2025.
- ・伊原弘『宋代士大夫官僚の基層社会と構造』勉誠社，2025.
- ・井内真帆『ポスト帝国期のチベット世界』臨川書店，2025.
- ・岩尾一史『古代チベット帝国の国家と軍制』臨川書店，2025.
- ・高田貫太『渡来人とは誰か』ちくま新書，2025.
- ・武田幸男『朝鮮の国家形成と東アジア』勉誠社，2025.
- ・岡本隆司『二十四史』中公新書，2025.
- ・西秋良宏，野林厚志編『パレオアジア新人文化の形成』新泉社，2025.
- ・斎藤賢『『史記』はいかにして編まれたか』京都大学学術出版会，2025.
- ・菊地大樹，丸山真史編『古代アジアの東西交流』新装版，雄山閣，2025.
- ・鎌田茂雄『新中国仏教史』新装版，大東出版社，2025.
- ・橋本秀美『孝経』岩波新書，2025.

このほか、授業内でも順次紹介の予定。

登録コード	L1820200	開講年度	2026				
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史概論 【EA】						
英文授業名	Asian History: Introduction						
授業タイトル	中国通史（元～現代）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				学術的成果に基づき中国通史の概略を説明できるようになる、		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				学術的成果に基づき中国通史の概略を説明できるようになる、		
授業の概要	【この授業は+毎週+eAlps上にオンデマンド動画を配信して進めます】 ユーラシア東部に位置する中国は、その領域を拡大・縮小させ、多くの民族を包含し、現在では世界経済の極めて重要な構成要素となっている。その歴史的な展開を、政治・経済・社会・思想・国際関係の各視点から総覧し、現代中国をめぐる諸問題の歴史的な背景について考える。						
授業計画	1 ガイダンス・現状分析：内容・評価方法説明／中華圏の現在 2 モンゴル帝国・元朝：「禪譲」のおわり／世界経済の駆動／紙幣と銀 3 元末明初：気候変動と王朝交代／現物主義財政／朝貢貿易システム 4 明中：銀の奔流と社会の流動化 5 明末清初：銀経済と格差拡大／民意と統治 6 18世紀清朝経済：銀と銅銭／新大陸産作物とフロンティア 7 18世紀清朝対外関係：海関体制の展開とほころび 8 アヘン戦争：インド・中国・アメリカ・マンチェスターとロンドン・シティ 9 同治中興：太平天国がもたらす地獄／国際金本位制／V字回復する経済 10 日清戦争と戊戌政変：「属国自主」の終わり／近代化の先達としての日本 11 辛亥革命：義和団戦争と西太后の退場／藩部の独立と民族問題／最後の皇帝 12 民国：蒋介石の台頭／貨幣と衛生の近代化／共産党はなぜ政権を取ったか 13 人民共和国：冷戦構造と最終戦争の恐怖／朝鮮戦争／中ソ対立／文化大革命 14 改革開放：雪解けと改革開放／自由と民主／リーマンショックと港澳台 15 まとめと現状分析：「清零宗」とポストコロナ（現状分析のため詳細未定） 授業アンケート						
成績評価の方法	毎回、eAlps上でコメントの提出を求める。コメントには、質問を記入すること。感想のみの場合は評価の対象としない。なおコメントに、すでに講義で触れた内容そのままの質問があった場合、当該回の評価は著しく下がるので注意すること。コメントにはすべて返答する。返答された内容を踏まえていない場合も、評価は著しく下がる。また、小テストをeAlps上で1回行う。いずれも遡及しての入力は受け付けない。						
成績評価の基準	コメントの評価基準 1) 講義内容を踏まえていること、2) 内容の理解に資するような疑問を挙げていることの二点を基準として毎回5点満点で採点する。 成績評価の基準 2 - 15回までの合計14回分積み重ねたもの（70%）と期末小テスト（30%）をもとに東アジア世界の歴史的構造変動にかかわる理解についての評価を行う。 小テストで概ね及第点をとり、内容を踏まえたコメントを提出しているものは、「その水準にある」といえる。 小テストで概ね正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「やや上にある」といえる。 小テストですべて正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「かなり上にある」といえる。 小テストで全て正解し、内容を踏まえて当該機の歴史的展開について理解に資するコメントを提出しているものは「卓越している」といえる。						
事前事後学習の内容	下記参考書及び毎回紹介する参考文献を読み込むこと。 また、コメントへの回答動画をeAlpsにアップロードするので、適宜確認すること。すでに出た質問にかんして、全く同じものが提出された場合は成績評価の対象としない。 コメントの提出期限は毎週金曜23：59とする。						
履修上の注意	【この授業は、“前期（集中）”とありますが、実際には毎週e-ALPSでの動画公開・質問記入を行いながら進めていくものです】 質問が重複すると、あとから書いたものは成績評価の対象となくなります。これまでに出了た質問には必ず目を通してください（つまりあとから質問を入力すると大変）。なおeALPSには検索機能があります。						

質問、相談への対応	授業の前後、あるいはeAlspのコメント欄で受け付ける。 またメール（toyooka@shinshu-u.ac.jp）でも受け付ける。
教科書	指定しない。eALPSに掲載されるPDFを参照すること。
参考書	尾形勇・岸本美緒編『中国史』（山川出版社、1998年）ISBN: 978-4634413306、3780円 シリーズ『中国の歴史』（新版）、第6 - 12巻、講談社学術文庫、2020 - 2021年 シリーズ『中国近現代史』全6巻、岩波新書、2010-2017年 岡田英弘『モンゴル帝国の興亡』（ちくま新書、2001年）978-4480059147 岡本隆司『世界史序説』（ちくま新書、2018年）978-4480071552 菊地秀明『越境の中国史 南からみた衝突と融合の300年』（講談社、2023年）978-4065302750 岸本美緒『東アジアの「近世」』（山川出版社、1998年）978-4634341302 そのほか、講義内で適宜紹介する。

登録コード	L1830400	開講年度	2026				
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史特論 【EA】						
英文授業名	Lecture of Asian History						
授業タイトル	港澳台概論						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目	該当	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				広義の中華圏をめぐる現状を歴史的に説明できるようになる。		
授業の概要	【この授業は、完全オンライン・オンデマンドの授業です。4月の授業開始から毎週火曜ごろに動画を公開、質問締め切りは金曜にします。詳しい日程はeALPSのこの授業のページをご覧ください。】 中華人民共和国の経済発展に伴って、東アジアにおける国際関係は、冷戦期の構造から大きく変容しつつある。その変容を、香港・マカオ・台湾・シンガポールなど、中国語がある程度通用する地域、すなわち中国であって中国でない地域の歴史的展開を踏まえて考える。						
授業計画	1：ガイダンス 2：マカオ（1）：海賊退治の褒賞をもらう海賊 3：台湾（1）：日中を結ぶミクロネシアの端 4：台湾（2）：清朝の植民地化 5：マカオ（2）：「繁栄の時代」 6：シンガポール（1）：イギリス帝国の東漸 7：香港（1）：華南と南洋をつなぐ自由港 8：マカオ（3）：時間が止まった町 9：香港（2）：ブラック・クリスマス 10：台湾（3）：“豚”が来るまえ 11：香港（3）：ブルース・リーは誰を殴るのか 12：台湾（4）：戒厳令の時代 13：香港（4）/マカオ（4）：世界一のカジノ、雨傘と消えた書店主 14：台湾（5）：ひまわりと霧島英文 15：総括 授業アンケート						
成績評価の方法	eALPS上の質問掲示板への質問書き込み（50点）と、学期末に提出するレポート（50点）をあわせて満点を100点とし、評価をおこなう。 レポートの課題は「特定地域における“言語・文化を国境線”」。任意の地域・時代を自分で選び、研究書・論文をもとに論じること（注のないウェブ記事は認めない）。5000字程度を目処とする。一人称の使用も認めない。具体的な題目は提出時に自分でつけること。締切は授業開始後に指示する。						
成績評価の基準	質問の評価基準 1）講義内容を踏まえていること、2）内容の理解に資するような疑問を挙げていることの2点を基準として毎回3点満点で採点する。その回の質問について、すでに他の受講生が掲示板に書き込んでいるものについては、評価の対象としない。 レポートの評価基準 1）形式（書式・注・参考文献の表記など）1割、構成（小見出しなど）2割、引用史資料の質（学術的な史資料を利用しているか）3割、正確性3割、結論の斬新さ1割とし、各項目ごとに採点し、満点が50点となるように調整する。 おおむね、講義の内容を踏まえた発言が出来れば「その水準にある」 講義の内容を踏まえ、その内容の理解に資する発言ができ、的確な史資料を利用したレポートが提出できれば、「やや上にある」 講義の内容を踏まえ、その内容の理解に資する発言ができ、的確な史資料を利用し、形式などの整ったレポートが提出できれば、「かなり上にある」 講義の内容を踏まえ、その内容の理解に資する発言ができ、的確な史資料を利用し、特定地域の近代性について深い理解を示す、形式などの整ったレポートが提出できれば、「卓越している」と評価する。						
事前事後学習の内容	講義は一回ごとに完結するが、その内容は別の回の内容と関連している。配布レジュメを利用し、事後学習によって全体像をつかむこと。 下記参考書及び毎回紹介する参考文献を読み込むこと。						
履修上の注意	後期第一週から、毎週火曜までには動画を公開し、質問締め切りを金曜にする予定。 質問が入力されてないと成績評価の対象にもならないので、注意されたい。 重複もダメ（早めに入力したほうがずっといい、締切間近だと、重複でハネられる可能性が高まります）						

質問、相談への対応	授業内容に関わるものについては、質問掲示板で受け付ける。その他はメール（toyooka@shinshu-u.ac.jp）で受け付ける。
教科書	使用しない。毎回資料を配布する。
参考書	伊藤潔『台湾』（中公新書、1993年） 岩崎育夫『物語 シンガポールの歴史』（中公新書、2013年） 殷允ペン『台湾の歴史』（藤原書店、1996年） 川島真ほか『日台関係史 1945 - 2008』（東京大学出版会、2009年） 邱淑テイ；『香港・日本映画交流史』（東京大学出版会、2007年） 久保亨ほか『現代中国の歴史—兩岸三地100年のあゆみ』（東京大学出版会、2008年） 倉田徹『中国返還後の香港』（名古屋大学出版会、2009年） 倉田徹、張イクマン『香港 中国と向き合う自由都市』（岩波新書、2015年） 塩出浩和『「可能性」としてのマカオ』（亜紀書房、1999年） 周婉窈著、濱島敦俊ほか訳『図説 台湾の歴史』（平凡社、2007年） 白石隆『海の帝国』（中公新書、2000年） 白石隆、ハウ・カロライン『中国は東アジアをどう変えるか』（中公新書、2012年） 鶴見祐輔『正伝 後藤新平』（全8巻 別冊1、藤原書店、2004 - 07年） 東光博英『マカオの歴史：南蛮の光と影』（大修館書店、1998年） 豊岡康史『海賊から見た清朝』（藤原書店、2016年） 中嶋峰雄『香港回帰』（中公新書、1997年） 濱下武志『香港 アジアのネットワーク都市』（ちくま新書、1996年） 久末亮一『香港 「帝国の時代」のゲートウェイ』（名古屋大学出版会、2012年） 若林正丈『台湾抗日運動史研究（増補版）』（研文出版、2001年） 若林正丈『台湾』（ちくま新書、2001年） 若林正丈『台湾の政治—中華民国台湾化の戦後史』（東京大学出版会、2008年） 若林正丈『現代台湾政治を読み解く』（研文出版、2014年） 若林正丈・家永真幸編『台湾研究入門』（東京大学出版会、2020年）

登録コード	L1831300	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	東洋史基幹演習						
英文授業名	Asian History: Basic Seminar						
授業タイトル	東洋史学研究文献講読						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加算対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】				歴史学（東洋史学）にかかわる研究テーマについて、先行研究のサーベイを行い、学説上重要な文献を絞り込むとともに、当該文献を分析的に読解・批評し、口頭報告及び体裁の整った文章という形で表現することができるようになる。 また、自身の見解を的確に他者に伝え、あるいは他者の見解を適切に受け止め、建設的に議論することができるようになる。		
授業の概要	・歴史学コースで学ぶ上で、「先行研究の取り扱い」は必須の技能です。本授業では、毎回テーマを設け、「研究史を体系的に把握し、その中で鍵となる論著を選び出し、実際にそれを手に入れて読み込み、批評する」という一連の作業を実践しながら身につけていきます。 ・授業は演習（ゼミ）形式をとります。すべての受講者は、学期中に一回、上記の作業に取り組むこととなります。具体的には、まず、ガイダンスの際に担当の回とテーマの割り振り（第3回から第13回までのいずれか）を行い、それぞれ担当テーマに即して批評対象図書（和書）を選定します。その際には、選定図書について教員に確認を受けることとします。そのうえで、当該図書についてガイダンスでの指示に沿って準備を進め、担当として割り当てられた回に、批評の内容を文章形式のレジュメにまとめて持参し、文章読み上げスタイルの報告と質疑応答を行います。資料の具体的な体裁や盛り込むべき事項の詳細は、ガイダンスで説明します。また学期末には、報告レジュメを基礎に、質疑応答の内容や教員からの指摘を反映した「書評」を執筆して提出するものとします。						
授業計画	第01回 ガイダンス（参加者自己紹介、受講ルール等の説明、担当の希望調査と仮決め） 第02回 基本事項に関する講義、担当確定 第03回 報告（01）中国秦漢史 第04回 報告（02）中国隋唐史 第05回 報告（03）中国宋元史 第06回 報告（04）中国明清史 第07回 報告（05）韓国朝鮮近現代史 第08回 報告（06）中国近現代史 第09回 中間まとめと教員からのフィードバック（講義） 第10回 報告（07）東西交渉史（古代・中世） 第11回 報告（08）中央ユーラシア古代・中世史 第12回 報告（09）中央ユーラシア近世・近代史 第13回 報告（10）東アジア近現代史 第14回 書評の執筆に関する講義 第15回 まとめ（総括、授業アンケート、書評の提出に関する連絡など） 参加者数は東洋史学研究室の所属学生数・進級者数などをもとに想定したものですが、他の分野／コースからの参加も可能です。実際の参加者に応じて、授業の目標を損なわない範囲で計画の組み換えやテーマの入れ替えを行います（各回のテーマも同様）。また、参加者の報告を軸に授業を進行するため、実際の状況に応じて内容は多少前後する可能性があります。時間が不足する場合は、質疑応答の一部をeALPSで行うなどの対応をとる可能性もあります。						
成績評価の方法	・担当回の報告（40％）、学期末に提出する書評（40％）、報告担当回以外の発言（20％）に基づき、総合的に成績評価をおこないます。 ・「報告」は、担当回での口頭報告を指します。当日までの準備を前提として、資料（レジュメ）の形式、内容理解・批評の妥当さ、質問等への対応的確さを確認します。 ・「書評」は、報告内容について、当日の質疑応答や指摘をもとに学期末に作成するものとします。内容のほか、体裁も評価の対象とします（下記「基準」参照）。なお、発表をせずに、書評だけ提出することは認めません。 ・報告担当回以外の発言については、各回の報告担当者が提示した情報に即した発言（指摘・質問等）ができているかを確認します。						
成績評価の基準	1) 所定のテーマに沿って研究史を体系的に把握し、研究史的意義を持つ論著を選定・入手して批評することができていれば、「合格水準にある」といえる。 2) 上記1)に加えて、批評の結果を指定の方法に沿って報告し、質問や指摘に対して適切な応答ができていれば、「やや上にある」といえる。 3) 上記1)・2)に加えて、質問や指摘を受けた事項をもとに、体裁の整った書評を作成することができていれば、「かなり上にある」といえる。 4) 上記1)・2)・3)に加えて、他者の報告について、内容に即し、かつ建設的な質問やコメントがで						

成績評価の基準	きていれば、「卓越している」といえる。
事前事後学習の内容	事前学習 ・自身の報告担当回に向けて、丁寧に発表準備を行ってください（自身で計画をたてて、相応の時間をかけて準備を進める必要があります）。具体的な必要事項と資料作成の要領はガイダンスで説明します。 ・自身が報告者ではない回についても、的確かつ建設的な質疑応答ができるよう、概説書などを用いて関連事項を確認したうえで授業に参加してください。なお、各回の報告者が選定した図書の書誌情報は、確定次第共有します。 事後学習 ・報告者は、授業後に「書評」を作成してください。授業中の指摘や質問は必ずメモしておき、極力すべて反映してください。 ・報告者以外の参加者は、報告者が取り上げた論点や批評の着眼点、質疑応答で問題となった点について整理しておいてください。授業後、それらを吟味し、自身の報告準備あるいは書評の執筆に反映してください。 ・準備、授業中、復習の全般にわたり、手間を惜しむことなく、意欲的に取り組むことが必要です。相応の時間と労力を要しますが、卒業論文の作成に向けては、自身の関心や問題意識を踏まえて主体的に探究活動を展開する能力の涵養が不可欠です。事前事後学習の指定事項についても、単なる作業として機械的に消化するのではなく、積極的、自発的、能動的に活動することを期待します。
履修上の注意	・文献の収集には、図書館を活用してください。計画的に時間をやりくりするとともに、手と足を動かして丁寧に準備してください。粘り強く、徹底的に情報を集めることが大切です。わからないことは放置せず、必ず質問してください。図書館に所蔵されていない文献の入手については、以下のURLを確認してください。 → https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/matsumoto/use/from-other-libraries.html ・国立国会図書館デジタルコレクション（無料、要事前登録）は、学修・研究にたいへん有用なツールがあるので、国会図書館の個人利用登録（本登録）を済ませておくことを強く推奨します。また、授業にはデジタルデバイスを持参してください。 ・履修希望者は必ず初回の授業に参加してください。発表担当者の割り当てを組む必要があるため、履修を希望するにもかかわらず急病等によりやむを得ず初回授業を欠席する場合は、当日中（遅くとも翌日中）を目途に、担当教員までメールで確実に連絡してください。 ・コース内の他研究室／他コースからの参加も可能です。ただし、人数把握が必要であるため、初回授業に必ず参加するとともに、真にやむを得ない事情により初回に参加できない場合は教員まで確実に連絡してください。 ・報告担当者の欠席は厳禁とします。スケジュール管理や健康管理等に十分留意してください。ただし、真にやむを得ない事情（「授業の出席に関する要項」に定める学修の補充の対象とする事由など。たんなる準備不足によるスケジュール変更は不可）によるものであれば、代替の機会を設けます。また、報告をもとに議論することも重要な活動であるため、担当者でない場合でも無断欠席は認めません。 ・学期中、eALPSまたは大学のメールアドレスで通知を行うことがあります。週1回以上を目安に定期的に確認してください。
質問、相談への対応	・対面での対応は原則として授業の前後に受けることとします。研究室所属者は、研究室内の連絡ツールを使用してもかまいません。 ・電子メール（アドレスはeALPSまたは学部履修案内を参照）での質問・相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合がありますので、余裕をもって問い合わせてください。 ・個別に面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください（対面・遠隔のいずれでも対応可）。
教科書	指定しない。
参考書	・『アジア歴史辞典』平凡社、1959-62年。 ・島田虔次ほか編『アジア歴史研究入門』同朋舎、1983-87年。 ・山根幸夫編『中国史研究入門（上・下）』増補版、山川出版社、1991・95年。 ・山田利明『中国学の歩み 二十世紀のシノロジー』大修館書店、1999年。 ・堀敏一『中国通史：問題史としてみる』講談社学術文庫、2000年。 ・礪波護ほか『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会、2006年。 ・桃木至朗編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008年。 ・小杉泰ほか編『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、2008年。 ・大津透編『律令制研究入門』名著刊行会、2011年。 ・朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会、2011年。 ・岡本隆司、吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012年。 ・水島司ほか編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015年。 ・村井章介編集代表『日明関係史研究入門』勉誠出版、2015年。 ・津田資久、井ノ口哲也『教養の中国史』ミネルヴァ書房、2018年。 ・佐藤昇編『歴史の見方・考え方』山川出版社、2018年。 ・小松久男ほか編『中央ユーラシア研究入門』山川出版社、2018年。 ・小浜正子ほか編『中国ジェンダー史研究入門』京大学術出版会、2018年。 ・岡本隆司、箱田恵子『ハンドブック近代中国外交史』ミネルヴァ書房、2019年。 ・朝日新聞出版編著、岡本隆司監修『年代順だからきちんとわかる中国史』河出書房新社、2020年。 ・岡本隆司監修『一冊でわかる中国史』河出書房新社、2020年。 ・金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年。 ・田中仁ほか『新・図説 中国近現代史』改訂版、法律文化社、2020年。

参考書

- ・鈴木董ほか編『中東・オリエント文化事典』丸善、2020年。
- ・漢字文献情報処理研究会『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』好文出版、2021年。
- ・岩城卓二ほか編『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、2022年。
- ・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年。
- ・川島真編『ようこそ中華世界へ』昭和堂、2022年。
- ・山下清海『華僑・華人を知るための52章』明石書店、2023年。
- ・中西竜也、増田知之編著『よくわかる中国史』ミネルヴァ書房、2023年。
- ・山口みどりほか編『論点・ジェンダー史学』ミネルヴァ書房、2023年。
- ・佐藤昇編『歴史の見方・考え方 2』山川出版社、2023年。
- ・小松久男編集代表『中央ユーラシア文化事典』丸善、2023年。
- ・辞典編集委員会『イスラーム文化事典』丸善、2023年。
- ・山本英史『中国の歴史』増補版、河出書房新社、2024年。
- ・河合洋尚ほか『中国民族誌学』風響社、2024年。
- ・大学の歴史教育を考える会『わかる・身につく歴史学の学び方』大月書店、2025年。

世界各国史、世界歴史大系、講座世界歴史、「興亡の世界史」、「歴史の転換期」、中公文庫「世界の歴史」などの講座／シリーズについては、中央図書館3階書架で確認してください。中央図書館2階参考図書も積極的に利用してください。

批評の対象として選定した図書が中央図書館・資料室に所蔵されていない（または貸出中となっている）場合は、自治体図書館の利用や取り寄せ（ILL）によって入手してください。

その他、ガイダンス及び授業の中で随時紹介します。

登録コード	L1831400	開講年度	2026				
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史基幹演習						
英文授業名	Asian History: Basic Seminar						
授業タイトル	漢文史料講読の基礎						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文501 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			専門的な辞書等を利用して史料を読解し、また先行研究などを用いて、その内容を批判的に分析し、情報を引き出せるようになる。			
授業の概要	19世紀初頭に成立した『嘯亭雜録』『嘯亭続録』という清朝官界噂話を集めたテキストを輪読する。今期はとくに『嘯亭雜録』巻一～巻四をとりあげる。 部分ごとに報告担当者を割り当て、担当者は原文・日本語訳・語釈・資料から引き出せる情報・参考文献を記載したレジュメを準備して、内容を報告する。そのうえで、全員で翻訳・語釈を検討する。担当者は質疑応答の内容や教員からの指摘をふまえて、学期末に内容を補訂した修正資料を作成・提出する。 この演習では漢文史料を取り上げるが、習得が期待される能力は、言語にかかわらない史料分析の手法である。漢文を読むことを主たる目的としている訳ではないことに注意されたい。						
授業計画	第1回：ガイダンス テキスト概略 第2回：テキスト検討箇所・担当者確定 第3回：『嘯亭雜録』巻一(1) 第4回：『嘯亭雜録』巻一(2) 第5回：『嘯亭雜録』巻一(3) 第6回：『嘯亭雜録』巻二(1) 第7回：『嘯亭雜録』巻二(2) 第8回：『嘯亭雜録』巻二(3) 第9回：『嘯亭雜録』巻三(1) 第10回：『嘯亭雜録』巻三(2) 第11回：『嘯亭雜録』巻三(3) 第12回：『嘯亭雜録』巻四(1) 第13回：『嘯亭雜録』巻四(2) 第14回：『嘯亭雜録』巻四(3) 第15回：総括／授業アンケート／修正版にかかわる連絡 定期試験なし 分析の進み具合に合わせて変更される場合がある。						
成績評価の方法	報告担当当日の準備資料・報告内容(40%)・授業参加態度(20%)・期末修正レジュメ(40%)を総合して評価する。						
成績評価の基準	・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた的確な分析ができていれば「卓越している」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた妥当な分析ができていれば「卓かなり上にある」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた分析ができていれば「やや上にある」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であれば、「合格水準にある」といえる。						
事前事後学習の内容	報告準備および修正レジュメの作成には丁寧にあたること。内容理解とそれをレジュメ・報告に反映するには、相応の準備時間が必要となる。						
履修上の注意	・報告担当週の欠席は、原則として「不可」となる。 ・現代中国語の知識は前提としないが、あったほうが便利ではある。 ・近世以降の漢文史料の分析は、『中日大辞典』および『漢語大詞典』『大漢和辞典』の利用を前提とする。図書館・資料室などの所蔵を確認されたい。 ・各種データベースについては、授業の中で説明する。						
質問、相談への対応	必要に応じてtoyooka@shinshu-u.ac.jpに連絡すること。						
教科書	『嘯亭雜録』（清代史料筆記叢刊、中華書局、1997年） 必要な部分のコピーは、教員が用意する。						
参考書	『《世界歴史大系》中国史4 明～清』（山川出版社、1999年） 宮崎市定『雍正帝』（岩波新書、1950年） 宮崎市定『科举：中国の試験地獄』（中公新書、1963年） その他、授業中に紹介する。						

登録コード	L1841500	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	東洋史発展演習						
英文授業名	Asian History: Advanced Seminar						
授業タイトル	漢文史料の講読と分析						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文501演習室	遠隔授業科目			読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前参加者対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・辞書等を利用し、漢文史料を読解することができるようになる。 また、史料から読み取った情報について、注釈や他の情報源（史料・研究文献等）を利用して、内容を評価・分析できるようになる。 ・史料の読解と分析という専門的学力を基盤として、系統的知識に基づく探究活動および実証的根拠に基づく課題解決を実行できるようになる。 ・自身の見解を的確に他者に伝え、あるいは他者の見解に応答することで、専門性の高い話題について建設的に議論することができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降参加者対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			・辞書等を利用し、漢文史料を読解することができるようになる。 また、史料から読み取った情報について、注釈や他の情報源（史料・研究文献等）を利用して、内容を評価・分析できるようになる。 ・史料の読解と分析という専門的学力を基盤として、系統的知識に基づく探究活動および実証的根拠に基づく課題解決を実行できるようになる。 ・自身の見解を的確に他者に伝え、あるいは他者の見解に応答することで、専門性の高い話題について建設的に議論することができるようになる。			
授業の概要	歴史学の方法論に基づいて卒業論文を作成するためには、史料の読解と情報の整理・分析というスキルが不可欠です。本授業では、東洋史領域の卒業論文で使用される頻度が高い史料言語である漢文（中国語の古典文語）を題材として、文献史料を読み込む訓練、特定の問題意識のもとで史料に書かれた関連情報を収集・整理・分析する訓練の二つを並行して行います。 については、漢文で書かれた宋代以前の簡略な通史である曾先之『十八史略』から、後漢時代（後1～3世紀）に関する部分を抜粋して輪読します。これにより、読解技術の向上や工具書（辞書・事典類）使用への習熟を図ります。 については、輪読で担当した箇所の内容に関して、任意に設定したテーマに基づき情報を検索・整理・分析するという作業に取り組むこととします。 参加者は、学期中に1回、報告を担当することになります。報告担当者は、担当範囲について およびの作業を行い、準備した資料（レジュメ）を授業で報告します。教場では資料を読み上げたのち全員で質疑応答と確認を行います。報告担当者は当日交わされた議論の内容をメモしておき、授業後にそれを反映した修正資料を作成して学期末に提出することとします。						
授業計画	第01回 ガイダンス（参加者自己紹介、テキストの解説、受講ルール等の説明、担当仮決め） 第02回 講読準備（基本事項の説明、担当確定、サンプルレジュメ〔底本pp. 9-10〕の説明） 第03回 講読（01）底本pp. 11-13 後漢（東漢）光武帝 第04回 講読（02）底本pp. 14-15 光武帝（続） 第05回 講読（03）底本pp. 16-17 光武帝（続） 第06回 講読（04）底本pp. 18-19 光武帝（続） 第07回 講読（05）底本pp. 20-21 光武帝（続）・明帝 第08回 講読（06）底本pp. 22-23 明帝（続） 第09回 講読（07）底本pp. 24-25 明帝（続） 第10回 講読（08）底本pp. 26-27 明帝・章帝 第11回 講読（09）底本pp. 28-29 章帝（続）・和帝 第12回 講読（10）底本pp. 30-31 殤帝・安帝 第13回 講読（11）底本pp. 32-33 安帝（続） 第14回 講読（12）底本pp. 34-35 安帝（続）・順帝 第15回 まとめ（総括、授業アンケート、修正資料の提出に関する連絡） 受講者による報告を軸として授業を進行するため、履修者数と実際の報告状況により講読（01）～（12）の内容は多少前後する可能性があります。また、時間が不足する場合は、質疑応答の一部をeALPSで行うなどの対応をとります。 ページの切れ目は、必ずしも内容や語句の切れ目と一致しません。各回の詳細な担当範囲（どの文字からどの文字までか）は前後の担当者間で相談して決定することとします。						
成績評価の方法	・担当回の報告（40％）、学期末に提出する修正資料（40％）、報告担当回以外の発言（20％）に基づき						

成績評価の方法	総合的に成績評価をおこないます。 ・「報告」は、当日のプレゼンテーションについて、発表資料（レジュメ）の形式、辞書等の活用状況、翻訳の正確さ、分析の妥当さ、質問等への対応の確かさを確認します。 ・「修正資料」とは、報告内容について、当日の質疑やコメントをもとに後日修正を加えた資料（レジュメ）を指します。これにより、史料の読解・分析・考察などの技能の定着度を確認します。 ・報告担当回以外の発言については、各回の報告担当者が提示した情報に即した発言（意見や質問）ができていかどうかを確認します。
成績評価の基準	・史料の読解及び分析の結果が正確であり、それを踏まえて的確かつ学術的発展性のある専門的議論（質疑応答）ができていれば「卓越している」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が正確であり、それを踏まえて的確な専門的議論（質疑応答）ができていれば「かなり上にある」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が概ね妥当であり、それを踏まえて概ね妥当な専門的議論（質疑応答）ができていれば「やや上にある」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が概ね妥当であり、それを踏まえて専門的議論（質疑応答）を試みることができていれば「合格水準にある」といえる。
事前事後学習の内容	・事前学習として、可能な限り丁寧に発表準備を行ってください。自身で計画をたてて、図書館や資料室に足を運び、相応の時間と手間をかけて取り組む必要があります。また、わからないことは放置せず、必ず質問してください。レジュメに盛り込むべき事項と資料作成の方法（生成AIの使用に関する留意事項及び条件・制限等）はガイダンスで説明します。 ・自身が報告担当ではない場合でも、授業で扱う箇所を一読したうえで参加してください。 ・事後学習として、報告担当終了後には修正資料を作成してください。授業中の指摘や質問については極力すべて反映してください。 ・自身が報告担当ではない場合でも、講読で扱われた事項や質疑応答で問題となった点（またはそのことが議論となった原因）について整理し、自身の報告準備または修正資料の作成に反映してください。 ・準備、授業中、復習の全般にわたり、手間を惜しむことなく、意欲的に取り組むことが必要です。相応の時間と労力を要しますが、卒業論文の作成に向けては、自身の関心や問題意識を踏まえて主体的に探究活動を展開する能力の涵養が不可欠です。事前事後学習の指定事項については、単なる作業として機械的に消化するのではなく、積極的、自発的、能動的に活動することを期待します。
履修上の注意	・『十八史略』の底本（【教科書】欄参照）は信大図書館または国立国会図書館（NDL）デジタルコレクションで閲覧可能（無料、要登録）。NDLデジタルコレクションは学修・研究にきわめて有用なツールであるため、授業開始までに個人利用登録（本登録）手続きを済ませておくことを強く推奨します。 ・本授業は「発展演習」です。専門性の高い内容を扱う演習であることに留意してください。ガイダンスの内容をよく理解し、他の報告者のレジュメも吟味したうえで自身の報告準備を進めてください。 ・担当の割り当てを行う必要があるため、初回の授業には必ず参加してください。急病等のやむを得ない理由により欠席する場合は、当日中（遅くとも翌日中）を目途に担当教員までメールで確実に連絡してください。 ・報告担当者の欠席は厳禁とします。スケジュール管理や健康管理等に十分留意してください。ただし、真にやむを得ない事情（「授業の出席に関する要項」に定める学修の補充の対象とする事由など。たんなる準備不足によるスケジュール変更は不可）によるものであれば、代替の機会を設けます。また、報告をもとに議論することも重要な活動であるため、担当者でない場合でも無断欠席は認めません。 ・現代中国語の学習経験（第二外国語として選択した言語）は問いません。不安があれば、ガイダンスのときに相談してください。 ・漢和辞典（字書）は必携。授業の場で史料や検索ツールを使うこともあるため、パソコンなどのデバイス（スマートフォンでは不十分）も持参してください（【教科書】欄のものが望ましいが、大学入学以前に使用したものなどでも一応可）。
質問、相談への対応	・対面での質問や相談は原則として授業の前後に受けることとします。東洋史学研究室の所属者は、研究室内の連絡ツールでも構いません。 ・電子メール（アドレスは履修案内またはeALPSで確認できます）での質問・相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合がありますので、余裕をもって問い合わせてください。 ・個別に面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください（対面・遠隔のいずれでも対応可）。
教科書	・（テキスト）服部宇之吉ほか校訂『漢文大系 第五巻』増補3版、富山房、1978年。 購入不要。図書館に紙媒体で所蔵されており、国会図書館デジタルコレクションでも閲覧可能（要登録）。講読に必要な部分は初回の授業で配布予定。 ・（辞書）戸川芳郎監修『全訳漢辞海』第5版、三省堂、2026年。 漢字辞書は必ず用意すること。『漢辞海』旧版や他の辞書（同程度の内容であるもの）でも可。また、『漢辞海』アプリを併用しても可。オンラインで閲覧できる辞書コンテンツは、紙媒体版が学術／教育系出版社から出版されているものを使用すること。 ・事前事後学習のなかでは、各自の知識と習熟度に応じて、高等学校用の世界史／漢文教材（年表・図表、用語集、便覧など）も適宜補助的に使用すること。
参考書	〔翻訳・訳注〕 ・林秀一『新釈漢文大系 十八史略』明治書院、1967年。 ・吉川忠夫訓注『後漢書』岩波書店、2001年。 ・渡邊義浩ほか編『全譯後漢書』汲古書院。 ・竹内弘行『十八史略』講談社学術文庫、講談社、2008年。

参考書

- ・今西凱夫訳、三上英司編『十八史略』筑摩書房、2014年。

〔辞書・事典類〕

- ・『大漢和辞典』大修館書店。
- ・『アジア歴史辞典』平凡社。
- ・『中国歴史地図集』地図出版社。
- ・『漢語大詞典』漢語大詞典出版社。
- ・『中国史籍解題辞典』燎原書店、1989年。
- ・西川正雄ほか『角川 世界史辞典』角川書店、2001年。
- ・『中日辞典』第3版、講談社、2010年。
- ・太田辰夫『中国語歴史文法』朋友書店、2013年。
- ・尾崎雄二郎ほか編『中国文化史大事典』大修館書店、2013年。
- ・『中日辞典』第3版、小学館、2016年。
- ・湯浅邦弘ほか『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房、2016年。
- ・吉田誠夫編『中国職官辞典』日外アソシエーツ、2020年。
- ・日本中国語学会編『中国語学辞典』岩波書店、2022年。
- ・日本中国友好協会編『中国百科』増補改訂版、めこん、2023年。

（辞書・事典類は中央図書館2階参考書コーナーや資料室で閲覧すること。近くの書架にある辞書・事典類も積極的に利用してください）

〔漢文入門〕

- ・加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫、2010年。
- ・古田島洋介、湯城吉信『漢文訓読入門』明治書院、2011年。
- ・前野直彬『漢文入門』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年。
- ・濱口富士雄編『漢文語法の基礎』東豊書店、2018年。
- ・宮本徹、松江崇編『漢文の読み方』放送大学教育振興会、2019年。
- ・西田太一郎『漢文の語法』KADOKAWA、2023年。
- ・中川諭『漢文を基礎から学ぶ』東方書店、2023年。

〔中国文献学関連〕

- ・高橋智『書誌学のすすめ』東方書店、2010年。
- ・坂出祥伸『初学者のための中国古典文献入門』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2018年。
- ・伊藤洪二『図書館のための和漢古書目録法入門』樹村房、2019年。
- ・古勝隆一『中国注疏講義』法蔵館、2022年。
- ・斯道文庫編『図説書誌学』訂正新版、勉誠社、2023年。
- ・清水茂『中国目録学』筑摩書房、2024年。
- ・陳力（楊帆訳）『中国図書史』京都大学学術出版会、2025年。

〔漢代史に関する研究書〕

- ・狩野直禎『後漢政治史の研究』同朋舎出版、1993年。
- ・渡邊義浩『後漢国家の支配と儒教』雄山閣出版、1995年。
- ・東晋次『後漢時代の政治と社会』名古屋大学出版会、1995年。
- ・多田狷介『漢魏晋史の研究』汲古書院、1999年。
- ・重近啓樹『秦漢税役体系の研究』汲古書院、1999年。
- ・佐原康夫『漢代都市機構の研究』汲古書院、2002年。
- ・富谷至編『邊境出土木簡の研究』朋友書店、2003年。
- ・高村武幸『漢代の地方官吏と地域社会』汲古書院、2008年。
- ・小嶋茂稔『漢代国家統治の構造と展開』汲古書院、2009年。
- ・渡邊義浩『後漢における「儒教国家」の成立』汲古書院、2009年。
- ・紙屋正和『漢時代における郡県制の展開』朋友書店、2009年。
- ・陶安あんど『秦漢刑罰体系の研究』創文社、2009年。
- ・富谷至『文書行政の漢帝国』名古屋大学出版会、2010年。
- ・渡邊将智『後漢政治制度の研究』早稲田大学出版部、2014年。
- ・伊藤敏雄ほか編『湖南出土簡牘とその社会』汲古書院、2015年。
- ・井ノ口哲也『後漢経学研究序説』勉誠出版、2015年。
- ・富谷至編『漢簡語彙考証』岩波書店、2015年。
- ・藤田勝久『中国古代国家と情報伝達』汲古書院、2016年。
- ・渡邊義浩、稀代麻也子編『後漢書研究便覧』汲古書院、2016年。
- ・高村武幸編『周縁領域からみた秦漢帝国』（一・二）六一書房、2017/2019年。
- ・藤田勝久、關尾史郎編『簡牘が描く中国古代の政治と社会』汲古書院、2017年。
- ・永田英正『漢代史研究』汲古書院、2018年。
- ・宮宅潔編『多民族社会の軍事統治』京都大学学術出版会、2018年。
- ・松島隆真『漢帝国の成立』京都大学学術出版会、2018年。
- ・伊藤敏雄、關尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』汲古書院、2020年。
- ・姜生『漢帝国の遺産』東方書店、2020年。
- ・佐藤達郎『漢六朝時代の制度と文化・社会』京都大学学術出版会、2021年。
- ・古勝隆一『中国中古の学術と社会』法蔵館、2021年。
- ・阿部幸信『漢代の天下秩序と国家構造』研文出版、2022年。
- ・飯田祥子『漢新時代の地域統治と政権交替』汲古書院、2022年。
- ・目黒杏子『漢王朝の祭祀と儀礼の研究』京都大学学術出版会、2023年。
- ・福永善隆『前漢官僚機構の構造と展開』汲古書院、2024年。
- ・宮宅潔編『暴力のありか』臨川書店、2024年。

参考書

- ・上野祥史、下田誠編『秦帝国と封泥』六一書房、2024年。
 - ・大槲敦弘『秦漢統一国家体制の研究』汲古書院、2025年。
- その他、ガイダンス及び授業の中で随時紹介します。

登録コード	L1841600	開講年度	2026				
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史発展演習						
英文授業名	Asian History: Advanced Seminar						
授業タイトル	東洋史発展演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文501演習室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			学術書の内容を把握して、批評を行うことができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			学術書の内容を把握して、批評を行うことができるようになる。			
授業の概要	歴史学の知見に基づく書籍を、担当者ごとに取り上げ、内容について批判的にレビューを行い、それぞれの関心対象についての研究史上に位置付ける。						
授業計画	第1回 ガイダンス／担当書籍の選定 第2回 陳來幸『近代中国の総商会制度：繋がる華人の世界』（京都大学学術出版会、2016年）の論評 第3回 西里喜之『清末中琉日関係史の研究』（京都大学学術出版会、2005年） 第4回 青山治世『近代中国の在外領事とアジア』（名古屋大学出版会、2014年） 第5回 谷井陽子『八旗制度の研究』（京都大学学術出版会、2015年） 第6回 中西竜也『中華と対話するイスラーム』（名古屋大学出版会、2013年） 第7回 塚瀬進『マンチュリア史研究』（吉川弘文館、2014年） 第8回 田中比呂志『近代中国の政治統合と地域社会』（研文出版、2010年） 第9回 渡辺美季『近世琉球と中日関係』（吉川弘文館、2012年） 第10回 藤波伸嘉『オスマン帝国と立憲政』（名古屋大学出版会、2011年） 第11回 奈良岡聡智『対華二十一条要求とはなんだったのか』（名古屋大学出版会、2015年） 第12回 野田仁『露清帝国とカザフ＝ハン国』（東京大学出版会、2011年） 第13回 李正熙『朝鮮華僑と近代東アジア』（京都大学学術出版会、2012年） 第14回 彭浩『近世日清通商関係史』（東京大学出版会、2015年） 第15回 総括 授業アンケート 定期試験なし 受講生の研究テーマに応じて変更される場合がある。						
成績評価の方法	各回担当の報告内容(60%)と毎回の議論参加のありかた(40%)によって歴史学にかかわる研究書を取り扱う技法を習得したか評価する。						
成績評価の基準	毎回の授業における報告・発言に、教員が感心するようなアイデアと知識があれば、「卓越している」と判断する。 取り上げた書籍の内容を理解していることが確認できれば、「その水準にある」と言える。 報告内容が書籍の読解に基づいていないと判断される場合には、評価は著しく下がる。						
事前事後学習の内容	報告準備にはしっかりと時間をかけること。他の担当者が取り扱う書籍についても目を通すことが望ましい。						
履修上の注意	【授業情報の共有をSLACKで行うので、事前にメールで教員にご連絡ください】 書籍の選択・調達についてはかならず教員に相談すること。勝手に非学術的な書籍を選定すると、レジュメを提出した段階で却下する場合がある。						
質問、相談への対応	授業の前後、メール（toyooka@shinshu-u.ac.jp）で受け付ける。						
教科書	指定しない						
参考書	指定しない。図書館や資料室の書籍を積極的に手にとって読み進めていただきたい。						

登録コード	L1920100	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史概論						
英文授業名	European and American history introduction						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3 時限
講義室	共通教育 1 3 講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			学問的な思考力を身につける			
	【2022年度以前加わった対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力			学問的な思考力を身につける			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。 【思索力・受容力・批判力】			学問的な思考力を身につける			
授業の概要	西洋史研究者である遅塚忠躬が著した『史学概論』をみながら、今日の西洋史を考える。						
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 レポートの書き方についての指導 第3週 ミューズのなかの一人 第4週 乙女の追跡 第5週 カトリーヌとジャック 第6週 ガラパゴス諸島から 第7週 古文書のにおい 第8週 地獄の裁判官と詩人 第9週 歴史学の対象 第10週 食糧暴動、ドリヴィエの存在 第11週 構造史・事件史・文化史 第12週 物価変動、飢饉 第13週 ルアン大司教領、エタンブ事件、ルカルパンティエ 第14週 フェーブルの闘い 第15週 ゆがんだガラス						
成績評価の方法	レポート8割、授業態度2割で評価する。						
成績評価の基準	出席をしていることが前提となる。 期末レポートが、テーマの問いに答える内容で、かつ、指定された様式（文章にすること、註をつけること等）に従って書かれたものであれば、『かなり上にある』と評価される。テーマの問いに答えようとしている努力がみられ、様式に従っているものは、『やや上にある』と評価される。テーマの問いに答える努力がみられるが、様式に一部不備（ただし註のないものは不可）があるものは『その水準にある』と評価される。『かなり上にある』の条件を満たし、さらに、テーマや註に関する条件を満たしたうえで、外国語文献まで含めた広い情報源から、深い考察を行ったものは、『卓越している』とみなされる。						
事前事後学習の内容	事前に、西洋史の概説書を読み進めておくこと。 事後に、授業ごとに指示した参考文献を調べて、読むことが望ましい。						
履修上の注意	なし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpに連絡してください。						
教科書	授業時に適宜指示する。						
参考書	遅塚忠躬『史学会論』東京大学出版会、2010年。						

登録コード	L1931400	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史特論						
英文授業名	Lecture of European and American History						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4 時限
講義室	人文第 2 講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			史実を知り定説的見解を問い直すことができるようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			古典的解釈を理解した上でその問題点も理解できるようになる			
授業の概要	フランス革命を、食糧暴動から考える。						
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 レポートの書き方についての指導 第3週 階級で語られるフランス革命 第4週 参考とするべき研究ートムスン 第5週 参考とするべき研究ーブトン 第6週 ダンケルクの市政 第7週 密輸 第8週 様々な「事実」市当局 第9週 様々な「事実」ディストリクト・県 第10週 様々な「事実」モンディヴェール 第11週 様々な「事実」ジラルドン 第12週 責任の所在 第13週 市当局の画策 第14週 市当局がめざしたもの 第15週 複合革命論の問題点						
成績評価の方法	レポート80パーセント、授業態度20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	参加をすることが前提である。 期末レポートが、テーマの問いに答える内容で、指定された様式（文章にすることや註をつけること）に従っていれば、『かなり上にある』と評価される。テーマの問いに答える努力がみられ、様式に従っていれば、『やや上にある』と評価される。テーマの問いに答える努力がみられ、かつ、指定された様式に従う努力がみられるのであれば、『その水準にある』とみなされる。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献を含めた広い情報源を利用して考察を行った内容であれば、『卓越している』とみなされる。						
事前事後学習の内容	事前にフランス史の概説書を読み進めておくこと。 事後に、近代フランス社会についての研究書・論文等を読むことが好ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにメールしてください。						
教科書	特になし						
参考書	授業時に指示する。						

登録コード	L1931500	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史特論						
英文授業名	Lecture of European and American History						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				史実を知り、定説的見解を問い直すことができるようになる		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				通説的解釈を理解した上でその問題点も理解できるようになる		
授業の概要	フランス近代社会を、ハイチの視点から考える。						
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 レポートの書き方についての指導 第3週 海の向こうに 第4週 奴隷社会 第5週 解放の前提 第6週 7年戦争・啓蒙主義 第7週 本国での結社・論争 第8週 前兆 第9週 黒人奴隷蜂起 第10週 黒人奴隷制廃止決議 第11週 パリ市民・啓蒙思想家の反応 第12週 オランブ・ド・グージュ 第13週 独立 第14週 真の独立は？ 第15週 まとめ						
成績評価の方法	レポート80パーセント、授業態度20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	参加をすることが前提である。 期末レポートが、テーマの問いに答える内容で、指定された様式（文章にすることや註をつけること）に従っていれば、『かなり上にある』と評価される。テーマの問いに答える努力がみられ、様式に従っていれば『やや上にある』と評価される。テーマの問いに答える努力がみられ、かつ、指定された様式に従う努力がみられるのであれば、『その水準にある』とみなされる。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献を含めた広い情報源を利用して考察を行った内容であれば、『卓越している』とみなされる。						
事前事後学習の内容	事前にフランス史の概説書を読み進めておくこと。 事後に、近代フランス社会についての研究書・論文等を読むことが好ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにメールしてください。						
教科書	特になし						
参考書	浜忠雄『ハイチ革命とフランス革命』北海道大学出版会、1998年。						

登録コード	L1931600	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史基幹演習						
英文授業名	European and American History: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文第2講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付15対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			西洋近代社会についての理解を深める			
授業の概要	出席者各自の研究テーマについて、報告をしてもらう。報告の内容について、議論をする。						
授業計画	学生の研究等により各回の計画を変更することがありえる。 第1回：ガイダンス 第2回：レジュメの書き方指導 第3回：第1グループ、読んでお話・あるいは報告 第4回：第2グループ、読んでお話・あるいは報告 第5回：第3グループ、読んでお話・あるいは報告 第6回：第4グループ、読んでお話・あるいは報告 第7回：第5グループ、読んでお話・あるいは報告 第8回：第6グループ、読んでお話・あるいは報告 第9回：第7グループ、読んでお話・あるいは報告 第10回：再調査発表会 第11回：再調査発表会 第12回：再調査発表会 第13回：再調査発表会 第14回：再調査発表会 第15回：反省会 授業アンケート						
成績評価の方法	研究報告の内容80パーセント、討論20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	出席をすることが前提条件である。報告の内容が、よく整理されていて、さらなる問題を提起するものであれば『かなり上にある』と評価される。報告の内容が、よく整理されていれば、『やや上にある』と評価される。報告の内容がまとまっていないが、努力が認められる場合には『その水準にある』と評価される。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献も含めた広い情報源から考察を試みたものは『卓越していると評価される。』						
事前事後学習の内容	事前に各自のテーマに必要な文献を読んでおくこと。 事後に、不足していた情報を補う文献を調べて読んでおくことが望ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにご連絡ください。						
教科書	授業時に指示する。						
参考書	授業時に適宜指示する。						

登録コード	L1941100	開講年度	2026				
担当教員	佐藤 真紀			副担当			
授業科目	西洋史発展演習						
英文授業名	European and American History: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文第3講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			西洋史について独自の理解を培うことができる			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			西洋史についての情報を見分けることができるようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			西洋社会についての専門的な理解ができるようになる			
授業の概要	出席者各自の研究テーマについて、報告をしてもらう。報告の内容について、議論をする。						
授業計画	学生の研究等により各回の計画を変更することがありえる。 第1回：ガイダンス 第2回：レジュメの書き方指導 第3回：第1グループ、調査報告と討論 第4回：第2グループ、調査報告と討論 第5回：第3グループ、調査報告と討論 第6回：第4グループ、調査報告と討論 第7回：第5グループ、調査報告と討論 第8回：第6グループ、調査報告と討論 第9回：第7グループ、調査報告と討論 第10回：再調査発表会 第11回：再調査発表会 第12回：再調査発表会 第13回：再調査発表会 第14回：再調査発表会 第15回：反省会 授業アンケート						
成績評価の方法	研究報告の内容80パーセント、討論20パーセントで評価する。						
成績評価の基準	出席をすることが前提条件である。報告の内容が、よく整理されていて、さらなる問題を提起するものであれば『かなり上にある』と評価される。報告の内容が、よく整理されていれば、『やや上にある』と評価される。報告の内容がまとまっていないが、努力が認められる場合には『その水準にある』と評価される。『かなり上にある』の条件を満たしたうえで、外国語文献も含めた広い情報源から考察を試みたものは『卓越している』と評価される。						
事前事後学習の内容	事前に各自のテーマに必要な文献を読んでおくこと。 事後に、不足していた情報を補う文献を調べて読んでおくことが望ましい。						
履修上の注意	特になし。						
質問、相談への対応	maquis@shinshu-u.ac.jpにご連絡ください。						
教科書	授業時に指示する。						
参考書	授業時に適宜指示する。						